

活動報告

今後のキャリアアップセンターのあり方に関する検討 —平成23年度キャリアアップセンター事業報告—

松永 早苗, 加納 亜紀, 上野 範子

1. はじめに

聖泉大学（以下、本学とする）看護学部は、地域の要望に応え、平成24年4月に開設した。本学看護学部の理念は、「①人々の「健康で豊かな生活」を支える看護実践能力を重視した看護基礎教育を行う。②人間性豊かな看護職者を育成する。③地域住民の疾病予防から療養支援、健康増進とその教育・研究に幅広く貢献する。」ことを掲げている。本学卒業生や地域の医療・福祉・教育現場の看護専門職が、学び続け、自己研鑽し、研究していく力を養っていくことが本学看護学部課せられた役割である。そのためには、地域医療・福祉・教育現場と連携して、本学卒業生に継続した教育環境の提供や、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や研修の場を、あるいは医療・福祉・教育現場の相互交流の場を提供していくことが必要となる。そこでこれらを推進するために、本学看護学部看護キャリアアップセンターは設置された。

平成23年度は、設置年度として、キャリアアップセンターの基盤づくりとキャリアアップセンター事業として、キャリアアップ講座の企画・運営をしたので報告する。

2. 平成23年度キャリアアップセンター事業

平成23年度は、キャリアアップセンター初年度として、キャリアアップセンターの運営とキャリアアップ講座の開催に取り組んだ。（表1）。

3. 平成23年度キャリアアップ講座の企画・運営

1) キャリアアップ講座のねらい

滋賀県内の本学看護学部の実習施設となる地

域医療・福祉・教育現場の研究初心者（約50名）を対象に、研究のプロセス、研究手法、データ処理方法、学会発表の方法を学べる講座を企画し、研究の支援と相互交流の場を提供することをねらいとした。

2) キャリアアップ講座の時期及び内容について

キャリアアップ講座（以下、講座とする）は、平成23年11月17日・18日・24日、12月1日の4日間で、本学の会議室、情報センター、共同研究室を利用し開催した。講座のプログラムについては、その構成を表2に示す。各日程に講座名を設け、初日はキャリアホップ（以下、ホップとする）と題して、看護研究の基礎的知識について、2日目をキャリアステップ（以下、ステップとする）と題して実際のデータ処理方法の実際について、3日目をキャリアアップ（以下、アップとする）と題して学会発表の方法やその基礎知識についての内容の講座を計画した。各日程の最後には、講座内容への質問や参加者同士の交流を深めるために、ティータイム形式の意見交換の場を設けた。さらに、最終日の4日目はキャリアサポート（以下、サポートする）と題して、看護研究について大学の教員に個別に相談できる場とした。

3) 対象と方法

講座は、聖泉大学看護学部実習施設を中心に計62施設へ講座の案内を10月初旬に郵送した。また、県外については、当大学の教員が講師として研修された施設に、講座の案内をした。10月末に講座参加を締め切った結果、県内施設より9名、県外施設より2名の11名の参加者があった。11名の参加者のうち、8名がホップ、ステップ、アップの3日間参加し、そのうちサポート

表1 平成23年度キャリアアップセンター年間活動

	活動内容	
	キャリアアップセンターの運営	キャリアアップ講座の開催
7月	第1回キャリアアップセンター会議 (活動目的, 活動内容の決定)	
8月	第2回キャリアアップセンター会議 (キャリアアップ講座プログラム案の検討, 日程の決定)	
9月	第3回キャリアアップセンター会議 (案内状, アンケートの具体的検討講師の選定)	教授会, 学科会議で講座開催の承認 講師依頼, プログラムの選定
10月	第4回キャリアアップセンター会議 (進捗, 準備状況の確認) 案内状の発送(10/6) 第5回キャリアアップセンター会議 (受講申し込み状況の確認と学科会議での協力依頼)	施設設備の確保, センター公印の手配 案内状の修正, 印刷 案内の発送作業 10月末 受講申込み締め切り
11月	第6回キャリアアップセンター会議 (準備状況の確認, 前日・当日の動きの確認)	受講者の確定, 必要物品の購入手配 キャリアアップの開催 (11月17日, 18日, 24日)
12月	第7回キャリアアップセンター会議 (平成23年度予算報告) 第8回キャリアアップセンター会議 (キャリアアップ講座の反省と平成24年度の活動計画)	キャリアアップ講座の開催 (12月1日) キャリアアップ講座アンケートの集計 予算執行に関する事後措置
1月	報告書の作成, 平成24年度の準備	
2月	第9回キャリアアップセンター会議 (平成24年度の準備, 報告書の作成)	

まですべての日程に参加したのは1名いた。その他、2名はホップのみ、1名はホップとサポートへの参加に留まった。全員が看護師であった。また、地域と大学の連携を目指し、学内からの聴講者も募ったが、数名の参加のみであった。

講座の評価として、各講座終了後、受講者と講師に講座についてのアンケート調査をホップ、ステップ、アップの3日間実施した。また、講師を対象とした調査では、6名のうち3名から回答を得た。調査内容は、①講座の開催時期について②講座の対象や人数について③講座の内容についてであった。受講者を対象とした調査では、3日間ほとんどの参加者から回答を得ることができた。調査内容は、①受講者の属性について②講座テーマへの興味③講座内容の理解度④講師に対する評価⑤学習環境⑥講座の有用性⑦講座の満足度であった。なお、受講者には倫理的配慮として、無記名の自由参加であることを説明し、アンケートの提出をもって承諾を得た。また、アンケート結果は、今後のキャリ

アップ講座の発展に活かすことを目的に行うことを説明した。

4) 講座の評価結果 (表3, 表4, 図1)

講師からの評価は、講座内容を、研究支援を主としていることや、パソコン操作のある演習形式の講義や受講者の反応を見るには、講座対象者は20名程度がよいとの意見が聞かれた。また、講座開催時期は、講師により意見が様々であったが、対象者の研究支援につながる時期を検討することで一致していた。

受講者からの評価は、講座内容の理解度の項目において、「あてはまる」「ややあてはまる」という回答は、ホップでは100%、ステップでは100%、アップでは88.9%という高評価を得た。講師に対する評価の項目において「あてはまる」「ややあてはまる」という回答は、ホップでは91%、ステップでは100%、アップでは100%という高評価を得た。講座の有用性の項目では、ホップでは90.9%、ステップでは100

％、アップでは100％という高評価を得た。また、総合的にみた講座の満足度の項目においても、「あてはまる」「ややあてはまる」という回答が、ホップでは90.9％、ステップでは100％、アップでは100％という高評価を得た。しかし、講座テーマへの興味の項目においては、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」という回答が、ホップでは18.2％、ステップでは20％、アップでは22.2％という結果を得た。

講座を開催する学習環境として、講座受講者の人数を問う項目においては、ホップでは90.9％、ステップでは100％、アップでは100％という高評価を得た。講座の開催時期については、自由記載で質問を行った結果、講師同様に希望にばらつきはあったが、講座の継続的な取り組みを望む意見が多かった。また、講座内容の充実さに対して参加費が安いとの意見も聞かれた。

5) 次年度のキャリアアップ講座の課題

平成23年度のキャリアアップ講座の企画・運営から、講座開催の案内状を郵送する時期が遅く、受講希望の締め切りまでの期間が短く、ねらいとした受講人数を確保に至らなかった。次年度は、講座の準備や日程の調整を早期に行い、本学看護学部実習施設だけにとどまらず、滋賀県内の幅広い施設や機関からの参加を得るため案内状の郵送先を増やしていく。また、本学ホームページ時ジを利用し、キャリアアップ講座を宣伝していくことを検討した。

キャリアアップ講座のアンケート調査結果から、講座の内容理解度、有用性、総合的にみた満足度、講師に対する評価において高評価を得た。また、講座受講者の人数に関しても適切であるという意見から、次年度も引き続き同様の内容、講師で、受講者を20名に設定した講座の企画を行う予定である。アンケート結果の中で、講座テーマへの興味を持たずに講座へ参加した受講者もいた。これは、所属施設から薦められて講座に参加した受講者がいたことが交流会の中からうかがい知れた。しかし、実際に講座に参加して得られた評価は高かったため、今後の講座開催の資料とするため、次年度の講座アンケート調査の中に、受講した動機を聞く項目を追加していきたいと考えている。

4. 今後のキャリアアップセンター活動の課題

近年、医療の高度化、複雑化、多様化に対応するため、看護職者の資質・能力の向上のプログラムが医療系の大学で開催されている。近隣の医療系看護大学でも、ジェネラリストの支援や看護職員の教育支援、地域医療職の研修受け入れ、さらに地域医療者と連携した共同研究の実施などを行っている。本看護学部は、地域医療・福祉・教育機関と連携し、滋賀県に根づく看護専門職の継続した育成が責務あり、滋賀県の地域医療・福祉・教育機関と共同研究を進めていくことは、本看護学部の必須の課題である。そのため、その基盤となるキャリアアップ講座を継続的に計画、実施し、本看護学部と地域医療・福祉・教育機関との看護研究能力を向上させていくことが重要となる。さらに、本看護学部の卒業生が就職する地域医療・福祉・教育機関と連携した卒後教育も検討する課題の一つである。このことは、大学の基礎教育と医療・福祉・教育機関での卒後教育は、現在別々にとらえがちであるが、質の高い看護職の育成という観点に立てば、今後は両者が交流、理解して痛みの判る高度な技を備えた看護職を育てることができることにつながると考える。

表2 平成23年度キャリアアップ講座プログラム

	11月17日(木)	11月18日(金)	11月24日(木)	12月1日(木)
講座名	キャリア ホップ	キャリア ステップ	キャリア アップ	キャリア サポート
9:30~10:00	受付 場所:看護棟1階 ホール	受付 場所:看護棟1階 ホール	受付 場所:看護棟1階 ホール	受付
10:00~10:30	学部長 挨拶 講座の説明 場所:本館第2・3会議室	研究方法について学ぼう 担当:田中 場所:本館第2・3会議室	学会とは 担当:間 場所:本館第2・3会議室	研究個別相談 (研究に関する悩みを個別に 大学教員に相談できます) 場所:共同研究室
10:40~11:40 (60分)	研究とは 担当:石田 場所:本館第2・3会議室	11:30~12:30	昼食	
11:40~12:50	昼食	12:40~13:40 (60分)	Excelを活用したデータ処理を学ぼう 担当:加納 場所:第4コンピュータ室	学会発表に挑戦してみよう 担当:長谷部 場所:第4コンピュータ室
13:00~14:00 (60分)	研究の進め方、計画書の書き方について学ぼう 担当:流郷 場所:第4コンピュータ室	13:50~14:50 (60分)	基礎統計を学ぼう 担当:加納 場所:第4コンピュータ室	成果を論文にまとめよう 担当:間・長谷部 場所:第4コンピュータ室
14:10~15:10 (60分)	文献検索の方法を学ぼう 担当:流郷 場所:第4コンピュータ室	15:00~16:00	意見交換(ティーク)	意見交換(ティーク)
15:20~16:00	意見交換(ティーク) アンケート 共同研究の募集 場所:本館第2・3会議室	アンケート 場所:本館第2・3会議室	アンケート 場所:本館第2・3会議室	

表3 平成23年度キャリアアップ講座講師アンケート結果

講座の開催時期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が研究に取り組む時期に合わせる。 ・今回の開催時期で良かった。 ・もう少し早い時期が適切である。
講座の対象や人数	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン操作などを考えると最大20名くらいが妥当である。 ・20名程度の受講者であれば、受講者の反応をみて、講座が進められる。
講座の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・研究初心者への研究支援

表4 平成23年度キャリアアップ講座受講者のアンケート結果自由記載欄

受講しての意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ティークで他施設との情報交換ができた。 ・講師が良かった。 ・クリティークの手法などを学べた。 ・パソコンを使用してのデータ処理方法が学べて良かった。 ・今後の看護研究に生かせる内容だった。 ・受講料が安くて申し訳ない。
開催時期の希望	<ul style="list-style-type: none"> ・次の年度にむけて良い時期の開催であった。 ・もう少し早い時期でも良い。
受講してみたい講座や研修	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析方法を取り入れた研究手法 ・質的研究方法 ・新人教育, アサーション, 看護診断, 感染対策, コミュニケーションスキル ・定期的に様々なテーマを取り上げた研修会を希望する。

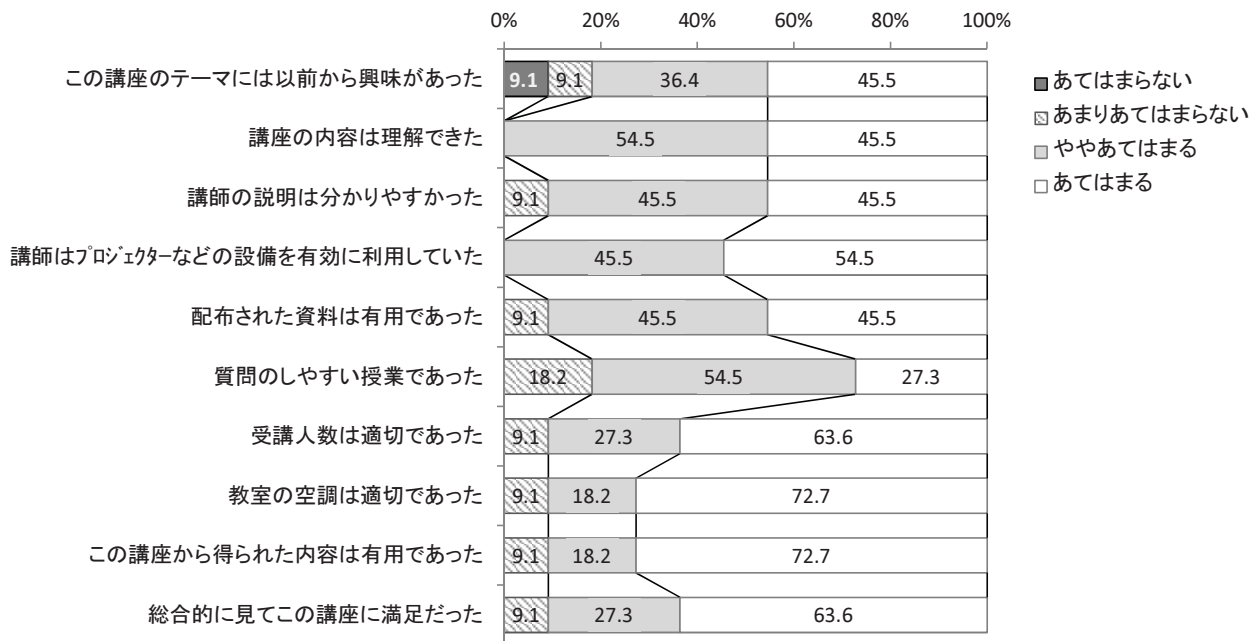


図1-1. キャリアホップ受講者における回答結果

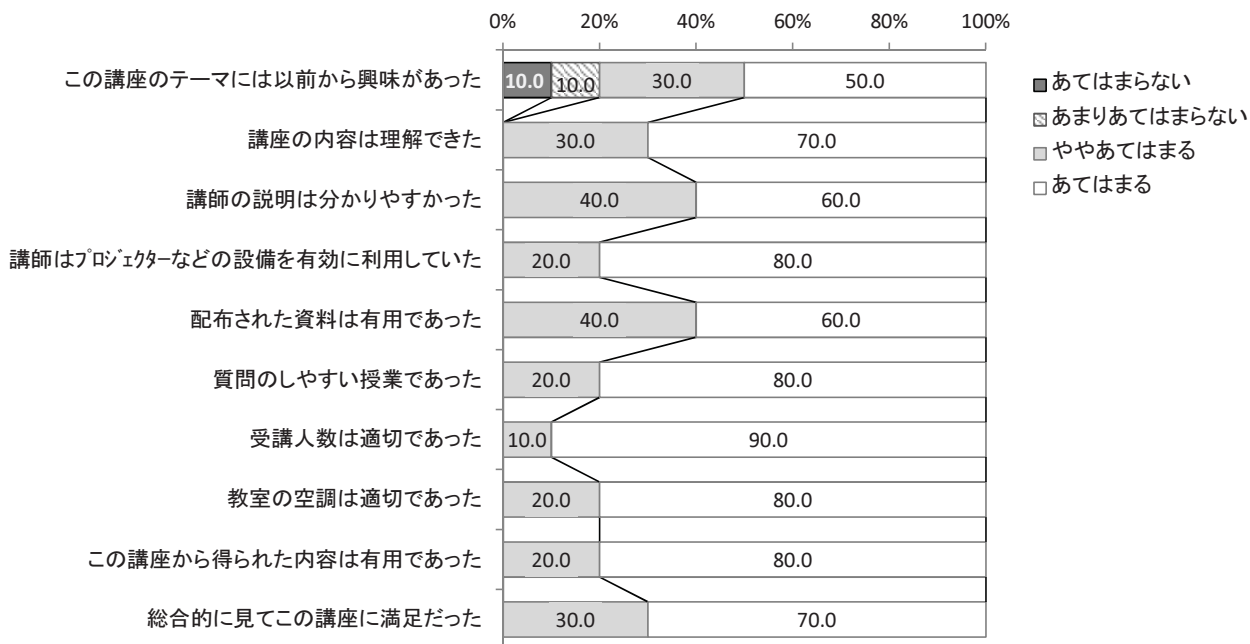


図1-2. キャリアステップ受講者における回答結果

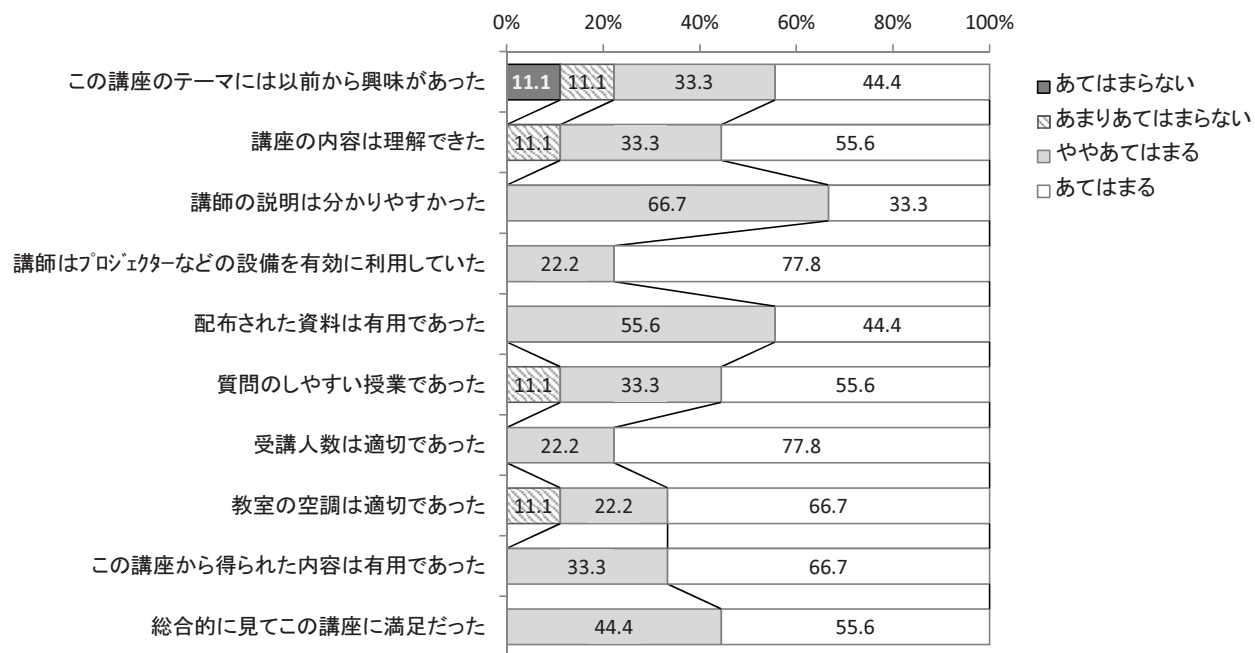


図1-3. キャリアアップ受講者における回答結果